

山口県公立大学法人評価委員会（第16回）の審議要旨

- 1 日 時 平成23年8月9日（火） 13:30～15:30
- 2 場 所 山口県庁共用第2会議室
- 3 出席委員 牛見委員長、呉委員、樋口委員、二木委員（50音順）
- 4 審議事項 第2期中期目標（素案）・中期計画（骨子）（平成24～29年度）について
- 5 審議要旨 [● 委員 ◇ 委員長 □ 法人 △ 県]

- 学生支援に関する項目で、学生の「就職決定率」を指標として掲げているが、「実質就職率」を指標とする方が分かりやすい。

注) 就職決定率 : 就職決定者数 / 就職希望者数 × 100

実質就職率 : 就職決定者数 / (卒業生数 - 大学院進学者数) × 100

- 第1期では、「就職を希望される方々が全て就職できるように」という形での取組を進めてきた。第2期の指標をどう設定するかについては、御意見も踏まえて検討していく。

- 財務内容の改善に関する項目のうち「経費の抑制」について、「人件費の抑制」を前面に出しすぎた場合、現場の教職員のモチベーション低下が懸念される。

△ 「人件費の削減ありき」ではない。財務の健全性を維持していく上で、「経費の抑制」については、支出総額に占める割合が大きい「人件費」も含めて検討願いたいという趣旨でこの表現としている。

- 教育の質の向上の観点で「教職員のモチベーション」は非常に重要である。他方、「自律経営」の面で、人件費についても見直しの余地があるかどうか真摯に検討することも必要と考えている。今後、将来の姿を描いていく中で、両方の課題のより良いバランスについて検討していく。

- 「大学情報の戦略的発信」について、目標では、業務運営の改善等の項目の中で掲げているが、計画では、情報発信に関する取組が複数の項目（教育研究、地域貢献、業務運営）に分かれて入っている。目標と計画の関係を分かりやすくしてほしい。

- これまでの反省も踏まえ、今後、情報発信に戦略性を持たせることが重要であると考え、1つの項目として柱立てを行ったところであるが、分かりやすきの観点も十分念頭において、検討を進めていく。

- 教育研究の質の向上に関する項目で、「国際交流」を掲げているが、もう一歩進んで「国際貢献」の視点での取組も検討してほしい。
- これまで地道な草の根交流をベースに国際交流を展開してきたところであり、一足飛びに「国際貢献」を目標に掲げるところまで行けるかどうかは分からない。ただ、国際文化学部では、既に「世界各国のボランティアと楽しく作業、寝食を共にするワークキャンプ」を一部ではあるが実習に採り入れている。
- 社会福祉学領域や看護学・栄養学領域で掲げている「チームアプローチに関する能力の涵養」は大切とは思いますが、資格取得との両立は難しい面がある。何か特色ある取組を組み込んでいければ良い展開が期待できると思う。
- 御指摘のとおり資格取得上の制約から、取組を進める上で一定の限界があるが、工夫できる余地があるかどうかを含め、引き続き検討していく。
- 中期計画（骨子）で「実務経験者の大学院受け入れの推進」を掲げているが、大学院生数に占める実務経験者の現在の割合を教えてください。
- 平成23年度の入学者のうち、入学出願時点で職を持っておられる方の割合は、国際文化学研究科で50%、健康福祉学研究科で67%となっている。
- 今回の中期目標（素案）・中期計画（骨子）で「危機管理」が掲げられている。この点で、学生を海外に連れて行って事故が発生した時にどうするかといった場面も想定されるが、どういった形のものを考えているのか。また、事故が発生した場合を想定したシュミレーションを行っているのかについても教えてください。
- 昨年度、危機管理マニュアルを策定し、その中の渡航マニュアルで、海外で事故が発生したときの対応について具体的に表記している。シュミレーションについてはまだ実施していないので、なるべく早い段階で行いたいと考えている。
- ◇ 今回の各委員の御意見を踏まえ、事務局で第二期中期目標の原案を作成していただき、11月の評価委員会で審議し、第二期中期目標（原案）に対する評価委員会の意見をとりまとめた。

以 上